

《大学》

**安田女子大学**

**【自己管理能力向上のための教育システムの構築】**

## 取組の概要【1ページ以内】

### 1. 趣旨

本学の就職希望者に対する就職率は、96～98%と高い。しかし、学生は社会的・職業的自立の面で二極分化している。厳しい雇用情勢の中でも、自らの生き方を模索して早期に進路、就職先を決定する学生がいる一方で、自らの生き方の展望も持たず、厳しい現実を前にして、立ちすくみ行動に移せない学生もいる。最終的には手厚い就職支援により就職して社会に出るが、早期離職を誘発するなど、必ずしも自立に繋がるものではない。こうした二極化は、「自らの生き方を模索し、主体的に学び、挑戦・行動する力」の差によるものであると考える。就業力向上において「安田教育システム (YES: Yasuda Educational Systems)」の構築を行う理由がここにある。

### 2. 目的・目標

本取組の目的は、学生の自己管理能力（すなわち「生きる力」）の育成とそれを支援するシステムの充実、及び、それらを促進するための文化・風土の構築にある。目的達成の度合いを測る評価指標としては、①自己管理能力の向上、②学修意欲の向上、③就職満足度の向上、就職希望者数の増加を図る、を置く。

### 3. 内容

#### (1) 自己管理システムの構築、支援システムとの連携-安田教育システム(YES)の構築-

学生が、必携しているノートPCを通して、履修履歴や適性検査結果、自己評価などを見ることが出来る学びのポートフォリオ・システムの開発と改良を行うことで、学生の計画的な学修、及び、自己評価を可能にする。また、学生一人ひとりの学びのポートフォリオの情報を既存の特別科目「まほろば教養ゼミ」のチューターやキャリア・アドバイザーが共有することによって、指導、相談、支援できる環境を整備する。

#### (2) 自己管理能力支援機能の充実

学生に主体的に自らの将来を考えさせるとともに、学生の学修に対する目的意識の向上を図るために、社会（産業界、公共機関等）と連携して、学生主導のキャリア・フォーラムを行える環境を整備する。加えて、インターンシップや実学的専門教育、キャリア科目の充実も図る。

#### (3) 自己管理能力の育成を促進するための文化・風土の構築

学生の自己管理能力向上を促進するために、「YES, I CAN! (Yasuda Educational Systems, Independence through Communication, Action and Network)」を合言葉に、FD・SDによる教職員のビジョン共有、「学びから行動へ」などの冊子の作成、広報のためのビジュアル情報ビデオの設置・公開講座・シンポジウムなどを行うことにより、自立支援促進のための文化・風土を構築する。

### 4. 実施・評価体制

教学担当学長補佐をリーダーに、計画のビジョン共有を各種委員会（教務、共通教育、まほろば教養ゼミ、自己点検評価、就職指導等）ならびに学内FD研修会で行い、学科・事務組織間の協働で具体的に実施する。実施に当たっては、安田教育システム(YES)推進委員会を設置し、推進する。取組の評価は、学内の評価委員会が学期ごとの各種委員会からの報告と外部の有識者からなるアドバイザーボードの評価をもとに行い、それを推進委員会に報告する。推進委員会はその結果を受けて次年度の運営方針を決定し、それを本学の最高決定機関に報告する。そこでの助言・指導は次年度計画案に反映される。なお、評価は、質的調査（聞き取り調査）と量的調査（アンケート、インターンシップ参加者数等）の両面からなされる。PDCAサイクルの厳格な実施により、自己管理能力向上のための充実した教育システムを構築する。

《大学》

**福山大学**

**【備後就活仕掛け塾の開設】**

## 取組の概要【1ページ以内】

福山大学が位置する**備後地域**は、広島県東部の一地方に過ぎないが、製造や流通関連の業界を代表するようなユニークで高い技術力や販売力を誇る企業が数多く存在する。これらの企業リーダーの多くは、厳しい競争を生き抜いた団塊世代であり、現代の若者にとって出会うべき価値ある**熟年者**でもある。一方、備後周辺出身者が主体の本学学生は、競争環境に揉まれることもなく、真面目ではあるが進取の気概に欠ける面がある。本取組では、貴重な先達の経験に裏打ちされた思想や理論を学生に開陳してもらい、学生に人生の指標を示すことを目標とする。この地元企業経営者とともに行う研究・教育活動の実施ならびに公開・交流促進には、利便性の高い「社会連携研究推進センター」という**福山駅前校舎**を活用する。

ここに就業力育成支援事業による**備後就活仕掛け塾**の開設を企画する。まず学生が厳しい就職戦線を勝ち抜くためには、基礎的学力を向上させることが重要であるが、それ以上に就職活動に向けた**意識改革**と経験豊富な熟年者との**接触機会を増やすこと**にあると考える。これを塾開設の大きな目的とする。

次に、塾で企画される取組については、経済学部及び工学部の学生を対象とした二つの**セミナー**を設ける。前者を「**Eセミナー**」、後者を「**Tセミナー**」と名づけ、それぞれのセミナーの目的については、企業における

(a) Eセミナー：「総務」、「財務」及び「営業」の三つの**業務**

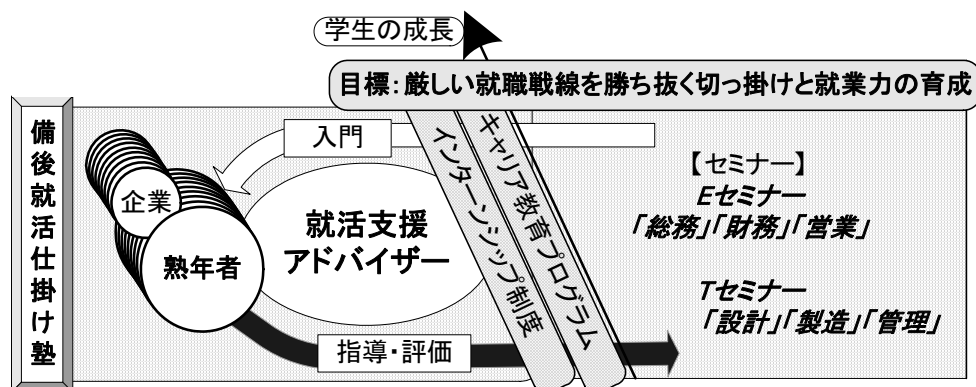
(b) Tセミナー：「設計」、「製造」及び「管理」におけるそれぞれの**技術**

の違いや企業が求めている人材像などを参加学生に理解させることである。学生による理解度の違いなどを考慮してA、B、Cの三段階能力別クラス分けを行い、少人数による**ゼミ効果の向上を図る**。また、「福山大学就業力推進室」を設け、**就活支援アドバイザー**による個々の学生に応じた指導も行う。さらに、本取組では、1年間を三期から構成される期間とし、それらの期での塾生の受講・理解力評価も厳しく行い、**就業力の向上結果が得られること**を目指す。

本事業の取組を実施して行くことによって、ゼミでの活発な討論や試験などを経験し、学生間での競争環境が育まれ、就職への意欲が高まる。同時に熟年者との接触から、備後での堅実な企業への就職だけでなく、全国から世界にも進出する優良企業の就職へと発展し、本学の就職率が100%に到達することが期待できる。

今回の塾での取組と既存のキャリア教育関連との位置付けに関する概略図を以下に示す。この入塾者は、

就活支援アドバイザーなどによる指導・評価を受け、**厳しい就職戦線を勝ち抜く切っ掛けと就業力の育成が図れ、社会で活躍できる人材になること**が期待できる。



[本取組みの概念図]

《大学》

**山口東京理科大学**

**【「ものづくり」から生み出すキャリア育成】**

## 取組の概要【1ページ以内】

本学は山口県、宇部市、山陽小野田市（旧小野田市）からの要請によって、地域に貢献するエンジニアの養成を目指して公私協力方式で平成7年4月に開学し、教育・研究を通じて地域社会の活性化や文化水準の向上を図ってきた。しかしながら大学進学率も全国平均より約10ポイントも低い上に県外への流出率も高く、過疎化も進行し産業も伸び悩んでいる。本学でも、入学者の減少や県内企業への就職率低迷等に直面している。

このような状況を踏まえ、平成20年2月に山陽小野田市の協力を得て、地元産業界が求めている人材の市場調査（企業が求める人材や専門知識、地元高校生の大学進学先など）を実施した。その結果、より地域に密着した実学重視型の大学として平成21年4月から工学部の下、機械工学科、電気工学科、応用化学科の3学科体制に再編し、地域産業界のキーパーソン育成を目指す大学として新たな出発を切った。入学者もここ2、3年増加してきたが、特に地元への就職は極めて厳しい状況である。現状を克服し、地域に貢献できる人材をより多く輩出するためには、これまでにない新しい発想に基づくキャリア育成事業が必要である。

本取組は、「ものづくり」の原点に立ち返って、本学がこれまで培ってきた産業界との連携、高等学校との連携をキャリア教育に展開して地域の産業に貢献できるキーパーソンを継続的に生み出すシステムを構築することを目指す。概要は以下の通りである。

### 1. 実務家教員の採用による「本物の技術者育成プロジェクト」の推進

自動車メーカーで長年技術開発に携わり、世界的な名車の開発も牽引した実務家教員を採用、さらに実務経験者の特別講義などを通して、ものづくりの本質である「理論」「技術」「体験」を体系的に理解させる教育を展開し、「本物の技術者」として社会に通用する人材を育成する。

### 2. 産学及び高等学校との連携による「ものづくり協働教育」の展開

- ・自動車の製造をモデルケースとして、地域の主要産業の一つである自動車業界との連携を図り、設計から製作、テスト走行及び駆動エネルギーや環境に優しい部品開発までを一つの教育システムと捉え、学生に「無」から「有」を生み出す様々な体験を積み重ねることで、「ものづくり」の真髄を理解させ、就業力の向上を図る。
- ・本学近郊にある、自動車や工業に関する教育を展開している高等学校と連携して、高校生と学生が「ものづくり工房」で協働する新たなキャリア教育を実施する。早期から勤労観を育成して、エンジニアとしての基礎を固めるとともに、高校から大学への一貫した「ものづくり教育体系」を構築する。

### 3. キャリア教育プログラムの再構築

1、2の取組を実際の職業指導に活用するべく、既に実施し効果をあげている、1年次から4年次までの一貫したキャリア教育プログラム（1年次導入教育、キャリア開発、職業教育など）をものづくりの観点から再構築する。

### 4. 就職支援体制の強化 充実

カウンセリングの強化、工業系の資格や技術士等資格取得に向けての体制整備や、各種講座・セミナーの充実等、就職支援体制を強化充実させ、学生の社会的・職業的自立を図る。

### 5. 地域の経済界や行政との連携強化

地元や近隣地区の経済界、自治体等との連携を促進し学生支援の強化を図る。

《大学》

**四国大学**

**【キャリアデザインを軸とする就業力の育成】**

## 取組の概要【1ページ以内】

本学は**建学の精神**に「**全人的自立**」を掲げ「知識・技術の修得とともに、人間的な成長を志向し、社会に貢献できる実践的な力を確立すること」と規定し、教育研究の推進と人材育成に努めてきた。しかし、地方の私学を取り巻く状況が厳しさを増す現在、この精神の具現化のために、全学的視点に立った新たな取組が必要となってきた。「**社会人・職業人として自立できる力**」、即ち「**就業力**」の育成に焦点を当てた教育課程の改善と体制の整備は本学の喫緊の課題である。本取組は、こうした認識のもと、新たに「**四国大学就業力育成推進委員会**」を設置し、次の**5つの取組**を柱に全学的に推進する。

### 1. 就業力育成セミナーの実施（学年ステップアップ方式）

年次段階的にセミナーを開催し、**スキルとマインドの両面で就業力の育成**を図る。セミナーは講演会と研修会を組み合わせ、各年次6回程度開催する。初年次は、自己理解、職業観・勤労観の育成など**キャリアデザイン**のための土台作りを中心とし、2年次は、より就業に直結した具体的な内容を中心に行う。3年次には就職活動に向けての実践的指導も加え、キャリア形成のための**スキルとマインド**を育成する。

### 2. キャリア教育強化のためのカリキュラム改善

本学のカリキュラムでは、1年次の「総合ゼミ」を中心とする共通教養科目で、今日的課題を設定し、調査、討論、発表等の取組を通して**学士力及び社会人基礎力**を育成するとともに、現実の社会状況を適切に理解させることとしている。さらに、3年次では、「**社会参加の人間学**」で、働くことの意義、自己啓発、経営の具体例等を取り上げ、インターンシップの事前・事後教育を行い、効果を上げている。

本取組では、各学部・学科の専門科目についても点検を行い、**キャリア教育の視点から到達目標、評価基準**を設定し、キャリア形成科目として教育課程に位置づける。これにセミナー等の行事を組み合わせ、相乗的な成果を期することとする。

また、学生のキャリア形成に焦点を当てた「**学生ポートフォリオ**」を作成し、取組目標の達成度について**自己評価・相互評価・教員評価の実施**、並びに取組全体の**外部評価**等により、着実な**就業力の育成**を図る。

### 3. 「キャリア相談センター」の開設

学生のキャリア形成支援のための相談窓口を開設し、これに対応するスタッフの体制を整える。特別な支援を必要とする学生に対しては、専門スタッフを委嘱し、就職支援体制の充実を図る。就業力育成に係るFD、SDにも取り組む。

### 4. 「四国大学ジョブカフェ」のオープン

各方面で活躍中の卒業生を招き、在学生の職場理解や目標達成のための「**就職支援懇談会**」を年1回開催している。これをさらに拡大・充実させ「**四国大学ジョブカフェ**」として実施する。

### 5. ジョブハンティングデータベースとHP（ブログ）の作成

卒業生から就業先の実情やアドバイスなどを集めデータベース化し、在学生の**ジョブハンティングの参考資料**として活用できるよう管理運営する。さらに、本学のポータルサイトとリンクさせ、学生・教職員がどこからでも必要な情報を入手できるようにする。また、本取組のホームページを開設し、進捗状況や成果等について広報する。



《大学》

九州共立大学

【生涯キャリア支援による就業力育成】

## 取組の概要【1ページ以内】

本学は、建学の精神「自律処行」(自らの良心に従い、事に処し善を行う)を学是とした教育研究活動を行うことを通して、自己理解、他者理解、社会理解を基盤とした問題解決能力を培い、卒業後、社会で活躍し得る人材を育成することを目的としている。

この目的を達成するために、本学では、平成16年度より、教員が学生一人ひとりにきめ細やかな指導を行うキャリア・アドバイザー制度を導入し、平成19年度からは、本学卒業生、企業の人事担当者、保護者、教職員等で構成される人材バンクであるキャリアナビゲーター・バンクを構築した。さらに、平成22年度より経済学部・スポーツ学部においてキャリアデザイン科目を必修科目にし、全学において正課授業として生涯キャリア支援の教育を実施できる体制の構築を推進してきた。これらの取組によって、学生が抱える課題を理解するための体制、および学生のキャリア形成を培うために必要な情報の教授・提供の体制は整いつつあるが、学生のアイデンティティ形成と将来構想力、並びにキャリア支援教育で教授・提供する情報の質の点で、なお課題を残している。

そこで、本学では、これまでの取組を継承・発展し、かつ上記の課題を解決するために(図-1参照)、

- [1] 教員組織と学生支援関連事務組織の協働によるキャリア・ポートフォリオ運用体制を整備し、また、併せて、
- [2] キャリアデザイン科目(学生の志向に沿った職業観・勤労観の醸成、コンピテンシー診断テストによる学生の自己理解能力の開発、等)を通じた基礎的就業力の育成
- [3] 実学的専門教育における第一線で活躍する専門家による講義・実習を通じた専門的就業力の育成
- [4] インターンシップ(課題解決型・起業体験型インターンシップ、等)による実践的就業力の育成
- [5] 上掲のキャリアナビゲーター・バンクを活用した生涯キャリア支援を通じた生涯にわたるキャリア形成力の育成

が可能な教育体制を整備する。さらに、これら[1]～[5]の取組により、本学が推進している「私力」の育成、すなわち、自ら考え、自ら行動し、自らを律する力の育成を通じて、学生の就業力を育成する。

